

口腔外科学

責任者・コーディネーター		口腔顎顔面再建学講座（口腔外科学分野） 山田 浩之 教授	
担当講座（分野）		薬理学講座（病態制御学分野）、病理学講座（病態解析学分野）、口腔顎顔面再建学講座（口腔外科学分野）、口腔顎顔面再建学講座（歯科放射線学分野）	
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習 実習
期間	通期		前期 116.0時間 — 後期 36.0時間 16.0時間

学修方針（講義概要等）

口腔外科的治療学は、口腔に発症する様々な疾患を理解した上で、それぞれの疾患に対する治療法を学ぶ学修コースである。疾患の診断に必須となる画像診断学や病理学の知識も併せて習得する。治療は正確な診断に基づいて行われる必要があるため、これまでの知識を統合し再確認しながら、各口腔疾患の治療方針を構築する能力を養う。

教育成果（アウトカム）

これまでに学修した人体の解剖学や病理学、薬理学の知識を統合し、口腔病変の病態や診断および口腔外科学的な処置・治療に関する知識・技能・態度を学ぶことで、顎口腔領域に疾患をもつ患者を適切に治療できるようになる。

（関連するディプロマポリシー：1、2、4、5、7、9）

到達目標（SB0s）

日程表の到達目標の欄に授業毎に示す。

事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。毎回原則としてレポート用紙半分程度の分量で学修した内容を提出予定のノートにまとめることとする。本内容は全授業に対して該当するものとし、各回最低45分を要する。

（事前学修：最低30分を要する 事後学修：最低45分を要する）

講義/演習/実習日程表

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	3/31 (月)	1	小川 淳 非常勤講師 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	医療面接と診察法 顎・口腔外科の診療に おいて必要な医療面接 の知識を習得する。	1. 医療面接を概説し、その重要性 について説明できる。 2. 医療面接で収集・留意すべき情 報を列挙できる。 3. 診察法の種類を列挙その概略を 説明できる。 [E-2-1-1-1~8, D-2-1-1-1~4] 事前学修：最新口腔外科学第5版を 参照し、事前学修の内容を提出予定 のノートにまとめておくこと。
講義	3/31 (月)	2	小川 淳 非常勤講師 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	主要症候 口腔外科疾患における 主要な症候を理解し、 診断に必要な知識を習 得する。	1. 主要な症候とその概略を説明で きる。 2. 主要な症候の原因、病理を説明 できる。 3. 主要な症候を有する主な疾患を 列挙できる。 [E-3-1-1~3] 事前学修：最新口腔外科学第5版P26 ~44を参照し、事前学修の内容を提 出予定のノートにまとめておくこ と。
講義	4/1 (火)	3	川井 忠准教授 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	基本的検査法1 全身状態の評価 口腔外科処置を行うに あたって、全身状態を 評価し、施術可能かど うかを判断できる知識 を習得する。	1. 歯科治療に際して留意すべき全 身状態を列挙できる。 2. 全身状態を評価するために必要 な検査項目を列挙できる。 3. 全身状態を評価するために必要 な検査項目を説明できる。 [D-2-3-1~6] 事前学修：最新口腔外科学第5版P45 ~104を参照し、事前学修の内容を 提出予定のノートにまとめておくこ と。
講義	4/1 (火)	4	入江太朗教授 (病理学講座 病態解 析学分野)	基本的検査法2 病理検査法 病理診断1 口腔領域に発症する疾 患の診断を適切に行う ために、病理学的所見 の基礎的知識を習得す る。	1. 検体検査の種類を列挙できる。 2. 病理検査の種類を列挙できる。 3. 病理検査の意義と特異性を説明 できる。 4. 検体採取から診断依頼までの過 程と注意事項を説明できる。 5. 標本作製から診断までの過程を 説明できる。 [D-2-6-1~2] 事前学修：口腔病理学第3版323-330 頁を読み、3学年時に学んだ知識を 整理しておくこと。
講義	4/7 (月)	1	泉澤 充教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科放射線学分 野)	基本的検査法3 画像診断学1 基礎 口腔領域に発症する疾 患の治療を適切に行う ために、画像診断所見 の記載方法を習得す る。	1. 読影所見の記載方法を列記でき る。 2. 歯根嚢胞を例として、読影所見 を記述できる。 3. 歯および歯周組織疾患のX線所見 を述べられる。 [D-2-5-7]

講義	4/7 (月)	2	泉澤 充教授 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	基本的検査法4 画像診断学2 基礎 口腔領域に発症する疾患の治療を適切に行うため、MRI読影に必要な基礎的知識を習得する。	1. T1強調像、T2強調像、プロトン強調像造影撮像について説明できる。 [D-2-5-9]
講義	4/8 (火)	3	星 勲助教 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	基本的検査法5 顎・口腔外科の診察において必要な検査法を習得する	1. 基本的な検査法を挙げ、その概略を説明できる。 2. 基本的な検査法の臨床的意義を説明できる。 3. 各臨床検査の基準値を述べ、異常値の意味を説明できる。 [D-2-3-1~6] 事前学修：最新口腔外科学第5版を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	4/14 (月)	1	平野大輔助教 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	顎顔面の損傷1 総論 口腔顎顔面領域に見られる損傷の概念、症状、治療について習得する。	1. 損傷の種類を列举できる。 2. 損傷の症状を概説できる。 3. 損傷の治療法を概説できる。 [D-3-1-2-1~2] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P149~173、731~740を参照し、顎口腔領域の損傷（硬組織及び軟組織）について学修した内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	4/14 (月)	2	平野大輔助教 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	顎顔面の損傷2 軟組織の損傷・合併損傷 顔面および口腔軟組織損傷の診断法と治療について理解する。 口腔顎顔面外傷の合併傷の診断法と治療法について習得する。	1. 軟組織損傷を分類し、それぞれの症状、処置法および治癒過程を説明できる。 2. 軟組織損傷の治療原則を説明できる。 3. 口腔顎顔面外傷の合併症の種類と特徴を説明できる。 4. 合併傷を分類し、それぞれの処置法、症状および処置法を説明できる。 [D-3-1-2-5] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P149~173、731~740を参照し、顎口腔領域の損傷（硬組織及び軟組織）について事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	4/15 (火)	3	川井 忠准教授 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	顎顔面の損傷3 歯の外傷・歯槽骨骨折 歯の損傷および歯槽骨骨折の診断法と治療について修得する。	1. 歯の損傷の種類と特徴および治癒過程を説明できる。 2. 歯の損傷の診断と治療法を説明できる。 3. 歯槽骨骨折の診断と治療法を説明できる。 [D-3-1-2-3] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P149~173、731~740を参照し、顎口腔領域の損傷（硬組織及び軟組織）について事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

講義	4/15 (火)	4	川井 忠准教授 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	顎顔面の損傷4 顎骨骨折ほか 顎顔面骨折の診断と治 療について習得する。	1. 顎顔面領域の骨折の特徴および 治癒過程を説明できる。 2. 顎顔面骨折の原因と種類を列挙 できる。 3. 上顎骨骨折、下顎骨骨折、頬 骨・頬骨弓骨折および鼻骨骨折の症 状と検査法を列挙し、診断と治療 法を説明できる。 [D-3-1-2-4] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P149～173、731～740を参照し、顎 口腔領域の損傷（硬組織及び軟組 織）について事前学修の内容を提出 予定のノートにまとめておくこと。
講義	4/22 (火)	3	川井 忠准教授 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	炎症1 顎口腔の炎症 総論 炎症の概念を理解し、 歯性感染症に関する知 識を習得する。	1. 炎症の概念・種類を説明でき る。 2. 炎症の症状、診断法、治療法を 説明できる。 3. 歯性感染症の概念を説明でき る。 4. 歯性感染症の概念と感染経路を 説明できる。 5. 急性炎症と慢性炎症の差異を説 明できる。 [D-3-1-3-1～3] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P174～198を参照し、事前学修の内 容を提出予定のノートにまとめてお くこと。
講義	4/22 (火)	4	川井 忠准教授 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	炎症2 組織間隙と支配血管 顎顔面領域の組織隙に ついて習得する。 選択的動注化学療法に 必要な血管の走行につ いて習得する。	1. 口底蜂窩織炎の波及について筋 隙の観点から解剖学的に説明でき る。 2. 翼突下顎隙を解剖学的に説明で きる。 3. 頭頸部の動脈の走行を説明でき る。 4. 超選択的動注化学療法に必要な 全身の血管の走行を説明できる。 [D-3-1-3-6] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P174～198を参照し、事前学修の内 容を提出予定のノートにまとめてお くこと。
講義	4/28 (月)	1	中山温史 非常勤講師 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	特別講義1 岩手県立磐井病院歯科 口腔外科の臨床	医師と連携するために必要な医学的 知識を実際の臨床に即して学ぶ。 [IP-01, 04, D-2-4-3]

講義	4/28 (月)	2	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	炎症3 病理診断2 炎症 口腔領域に発症する疾患の診断を適切に行うために、炎症と粘膜疾患の病理組織像を習得する。	1. 炎症の定義と分類を説明できる。 2. 滲出性炎の分類と特徴を説明できる。 3. 増殖性炎の特徴を説明できる。 4. 免疫応答による炎症を説明できる。 5. 炎症に関与する細胞の形態と機能を説明できる。 6. 炎症巣の治癒について説明できる。 [A-5-5-1～5] 事前学修：スタンダード病理学110-140頁を読み、3学年時に学んだ知識を整理しておくこと。
講義	5/12 (月)	1	泉澤 充教授 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	炎症4 画像診断学3 骨折・炎症 口腔領域の外傷・骨折や上顎洞疾患の適切な治療を行うため、臨床症状や画像診断・病理診断を基にした総合的診断の知識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 急性骨髓炎・慢性骨髓炎・Garre骨髓炎・放射線性骨髓炎・放射線性骨壊死・BRONJ・上顎洞炎・上顎洞真菌症・上顎洞粘液貯留嚢胞・術後性上顎嚢胞・上顎洞癌・上顎骨骨折・下顎骨骨折 [D-2-5-6～9]
講義	5/12 (月)	2	星 勲助教 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	炎症5 特異性炎 菌性全身感染症 顎・口腔顔面領域における特異性炎および菌性感染症が全身に及ぼす影響に関する知識を習得する。	1. 特異性炎の概念を説明できる。 2. 顎・口腔顔面領域にみられる特異性炎の種類を列挙できる。 3. 主要な特異性炎の原因菌を列挙できる。 4. 主要な特異性炎の症状、検査法、治療法を説明できる。 5. 菌性病変と全身感染症との関連について説明できる。 6. 菌血症と敗血症の病態を説明できる。 7. 菌性病巣感染の病態を説明できる。 [D-3-1-3-4～7] 事前学修：最新口腔外科学第5版P206～213を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

講義	5/13 (火)	3	川井 忠准教授 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	炎症6 歯周組織の炎症 顎骨の炎症 各種顎骨の炎症に関する知識を習得する。	1. 歯周組織の病態、症状、治療法を説明できる。 2. 歯冠周囲炎(智歯周囲炎を含む)の発症原因、症状、診断、治療について説明できる。 3. 歯槽骨炎と顎骨炎の病態、症状、診断、治療について説明できる。 4. 顎骨骨髓炎の分類について説明できる。 5. 急性顎骨骨髓炎の症状、経過、治療法について説明できる。 [D-3-1-3-1, 3, 6] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P174～198を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	5/13 (火)	4	川井 忠准教授 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	炎症7 顎骨周囲組織の炎症 蜂窩織炎 歯性上顎洞炎 顎骨周囲組織の炎症および歯性上顎洞炎の治療に必要な知識を習得する。	1. 顎骨周囲・頸部の組織隙を列挙できる。 2. 顎骨周囲・頸部の組織隙の位置を説明できる。 3. 軟組織炎症の症状を説明できる。 4. 蜂窩織炎と膿瘍の違いを説明できる。 5. 軟組織炎症の検査法と治療法を説明できる。 6. 歯性上顎洞炎の成因、検査法、治療法を説明できる。 [D-3-1-3-1, 3, 6] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P174～198を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	5/19 (月)	1	川又 慎介助教 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	口腔粘膜疾患1 総論 口内炎およびアフタ性病変 口腔粘膜の解剖学的特徴について学修し、口内炎およびアフタ性病変に関する知識を習得する。	1. 口腔粘膜の解剖学的構造について説明できる。 2. 口内炎やアフタの成因、症状について説明できる。 3. 口内炎やアフタの治療法について説明できる。 [D-3-1-4-1, 2] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P214～234、243～251を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	5/20 (火)	3	入江太朗教授 (病理学講座 病態解 析学分野)	口腔粘膜疾患2 病理診断3 口腔粘膜疾患の診断や病態把握を適切に行うために、口腔粘膜疾患の病理所見を習得する。	1. 正常な口腔粘膜の形態と上皮の機能について説明できる。 2. 細胞異型や組織異型、上皮性異形成について説明できる。 3. 水疱性疾患、角化性疾患、色素沈着などの口腔粘膜疾患の病理組織像を説明できる。 [A-5-6-3, 6] 事前学修：新口腔病理学第2版143～168頁を読み、3学年時に学んだ知識を整理しておくこと。

講義	5/20 (火)	4	川又 慎介助教 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	口腔粘膜疾患 3 水疱性疾患 ウイルス性疾患 水疱性疾患およびウ イルス性疾患に関する知 識を習得する。	1. 口腔粘膜に発症する水疱性疾患 を列挙し、その特徴について説明で きる。 2. 口腔粘膜に発症する水疱性疾患 の治療法について説明できる。 3. 口腔粘膜に発症するウイルス性 疾患を列挙し、その特徴について説 明できる。 4. 口腔粘膜に発症するウイルス性 疾患の治療法について説明できる。 [D-3-1-4-1, 2] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P214～234、243～251を参照し、事 前学修の内容を提出予定のノートに まとめておくこと。
講義	5/26 (月)	1	古城慎太郎講師 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	腫瘍1 総論 口腔領域に発生する腫 瘍に関する知識を習得 する。	1. 一般的な腫瘍の特徴や性質を説 明できる。 2. 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説 明できる。 [D-3-1-6-1～3] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P292～327、341～362を参照し、事 前学修の内容を提出予定のノートに まとめておくこと。
講義	5/26 (月)	2	古城慎太郎講師 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	腫瘍2 総論 口腔領域に発生する歯 原性腫瘍と非歯原性腫 瘍に関する知識を習得 する。	1. 口腔領域に発症する歯原性腫瘍 を列挙し、その特徴について説明で きる。 2. 口腔領域に発症する非歯原性腫 瘍を列挙し、その特徴について説明 できる。 [D-3-1-6-1, 2] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P292～340、762～775を参照し、事 前学修の内容を提出予定のノートに まとめておくこと。
講義	5/27 (火)	3	泉澤 充教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科放射線学分 野)	腫瘍3 画像診断学4 腫瘍 口腔領域に発生する良 性歯原性・非歯原性腫 瘍の適切な治療を行う ため、臨床症状や画像 診断・病理診断を基に した総合的診断の知 識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画 像所見について説明できる。 エナメル上皮腫・角化嚢胞性歯原性 腫瘍・石灰化上皮性歯原性腫瘍・石 灰化嚢胞性歯原性腫瘍・腺腫様歯原 性腫瘍・歯原性粘液腫・エナメル上 皮線維歯牙腫・エナメル上皮線維 腫・歯原性線維腫 [D-2-5-6～9]
講義	5/27 (火)	4	山田浩之教授 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	腫瘍4 歯原性腫瘍 歯原性腫瘍の種類を把 握し、発生病因、臨床 症状、病理組織像、診 断、治療法を習得す る。	1. 歯原性腫瘍を列挙し分類でき る。 2. 歯原性良性腫瘍の一般的な臨床 症状を説明でき、診断に必要な検査 を挙げ、その概略を説明できる。 3. 歯原性良性腫瘍の一般的な治療 法を説明できる。 [D-3-1-6-1～3] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P292～327を参照し、事前学修の内 容を提出予定のノートにまとめてお くこと。

講義	6/2 (月)	1	秋本祐基助教 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	嚢胞1 総論 口腔領域に発生する嚢胞の分類、臨床症状、画像診断、病理組織診断、治療法を習得する。	1. 口腔領域に発生する嚢胞を分類し、その臨床症状が説明できる。 2. 嚢胞の画像所見と病理所見が説明できる。 3. 嚢胞に対する適切な治療が説明できる。 [D-3-1-5-1, 2] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P271～291、378を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	6/2 (月)	2	秋本祐基助教 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	嚢胞2 顎嚢胞 軟組織の嚢胞 口腔顎顔面領域に発生する嚢胞の分類、発生病因、診断、治療法を習得する。	1. 顎骨および軟組織に発生する嚢胞を分類し、発生病因と臨床症状、画像検査所見、病理組織所見を述べ、治療方法が説明できる。 2. 様々な嚢胞に対する手術方法が説明できる。 3. 手術器具の種類を列举し、その使用方法が説明できる。 [D-3-1-5-1, 2] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P271～291、378を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	6/9 (月)	1	入江太郎教授 (病理学講座 病態解析学分野)	嚢胞3 病理診断4 嚢胞 口腔領域に発症する疾患の診断を適切に行うために、嚢胞の病理組織所見を習得する。	1. 嚢胞の定義と成り立ちを説明できる。 2. 口腔領域に生じる嚢胞を組織由来や発生部位によって分類し、それぞれに属するものを具体的に列举できる。 3. 口腔領域に生じる嚢胞について、それぞれの病理組織所見を説明できる。 [D-3-1-5-1, 2] 事前学修：新口腔病理学第3版182～195頁を読み、3学年時に学んだ知識を整理しておくこと。
講義	6/9 (月)	2	泉澤 充教授 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	嚢胞4 画像診断学5 口腔領域に発生する嚢胞や偽嚢胞の適切な治療を行うため、臨床症状や画像診断・病理診断を基にした総合的診断の知識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 歯根嚢胞・残留嚢胞・含歯性嚢胞・歯周嚢胞・側方歯周嚢胞・鼻口蓋嚢胞・鼻齒槽嚢胞・単純性骨嚢胞・静止性骨空洞・脈瘤性骨嚢胞 [D-3-1-5-1, 2, D-2-5-6～9]
講義	6/10 (火)	3	青村知幸 非常勤講師 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	顎関節疾患1 外傷、炎症、形態・機能異常 顎関節における形態と機能異常、損傷、炎症性疾患の原因、症状、診断、治療に関する知識を習得する。	1. 主要な顎関節形態異常、機能異常の種類、原因、症状、治療法を列举できる。 2. 顎関節損傷の種類、原因、症状、治療法を列举できる。 3. 顎関節の炎症性疾患の種類、原因、症状、治療法を列举できる。 [D-3-1-7-1, 2] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P392～405を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

講義	6/10 (火)	4	青村知幸 非常勤講師 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	顎関節疾患2 顎関節症 顎関節症の分類、症 状、診断、治療に関す る知識を習得する。	1. 顎関節の形態と機能について説 明できる。 2. 顎関節症の分類を列举できる。 3. 顎関節症の症状・診断法を概説 できる。 4. 顎関節症の治療法を説明でき る。 [D-3-1-7-1, 2] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P388～391、405～411を参照し、事 前学修の内容を提出予定のノートに まとめておくこと。
講義	6/16 (月)	1	山田浩之教授 阿部亜希研究員 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	特別講義2 岩手県立中央病院歯科 口腔外科の臨床	医師と連携するために必要な医学的 知識を実際の臨床に即して学ぶ。 [IP-01, 04, D-2-4-3]
講義	6/16 (月)	2	山田浩之教授 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	顎関節疾患3 顎関節の手術	1. 習慣性顎関節脱臼の手術法につ いて説明できる。 2. 顎関節腫瘍の手術法について説 明できる。 [D-3-1-7-2] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P817～827を参照し、事前学修の内 容を提出予定のノートにまとめてお くこと。
講義	6/17 (火)	3	飯島 伸 非常勤講師 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	先天異常・後天異常1 顔面・口腔の奇形 先天性・後天性異常の 概念、成因、発生との 関連について理解し、 奇形に関する知識を習 得する。	1. 先天異常・後天異常の概念と成 因について説明できる。 2. 顔面・口腔の発生と先天異常と の関連について説明できる。 3. 顔面・口腔の奇形の種類を列举で きる。 4. 口唇裂の発生率、裂型、症状、 治療法を説明できる。 5. 口蓋裂の発生率、裂型、症状、 治療法を説明できる。 [D-3-1-1-1～4] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P126～137を参照し、事前学修の内 容を提出予定のノートにまとめてお くこと。
講義	6/17 (火)	4	星名秀行 客員教授 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	特別講義3 口腔腫瘍の集学的治療 と機能再建：再生医療 とインプラント治療を 含めて	1. 口腔腫瘍の集学的治療および再建 について理解できる。 2. インプラント治療における骨増生 および再生医療について説明でき る。 [IP-01, 04, D-2-4-3]
講義	6/23 (月)	1	泉澤 充教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科放射線学分 野)	唾液腺1 顎関節1 画像診断学6 唾液腺疾患の適切な治 療を行うため、臨床症 状や画像診断・病理診 断を基にした総合的診 断の知識・技能を習得 する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画 像所見について説明できる。 唾液腺炎・Sjogren症候群・ Mikulicz症候群・唾石・唾液腺腫瘍 [D-3-1-8-7、D-3-1-7-1, 2]

講義	6/23 (月)	2	古城 慎太郎講師 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	唾液腺2 唾液腺疾患 唾液腺疾患の症状、診断および治療法を習得する。	1. 唾液腺の炎症性疾患を説明できる。 2. 唾液腺の外傷を説明できる。 3. 唾液腺の閉塞性疾患を説明できる。 [D-3-1-8-2, 3] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P509～532を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	6/24 (火)	3	泉澤 充教授 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	腫瘍5 画像診断学8 悪性腫瘍 口腔領域に発症する悪性腫瘍と骨髄炎の適切な治療を行うため、臨床症状や画像診断・病理診断を基にした総合的診断の知識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 下顎歯肉癌・舌癌・口腔底癌・上顎歯肉癌・上顎洞癌・頬粘膜癌・骨肉腫・悪性黒色腫・悪性リンパ腫 [D-2-5-6～9]
講義	6/24 (火)	4	山田浩之教授 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	神経疾患1 口腔顔面痛と慢性疼痛 様々な口腔顔面痛について習得する。	1. 顎顔面口腔領域の疼痛の種類が列举できる。 2. 三叉神経痛、舌咽神経痛の概念、症状および治療方法が説明できる。 3. 慢性疼痛の概念、診断、治療方法が説明できる。 [D-3-1-9-1, 2] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P412～430を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	6/30 (月)	1	川井 忠准教授 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	神経疾患2 神経麻痺 神経麻痺の病態と治療法について習得する。	1. 顔面神経麻痺の特徴、症状および治療法を説明できる。 2. 三叉神経麻痺の症状と治療法を説明できる。 3. 舌咽神経麻痺の症状を説明できる。 [D-3-1-9-3, 4] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P412～441を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	6/30 (月)	2	小川 淳 非常勤講師 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	特別講義4 開業歯科における口腔外科診療	医師と連携するために必要な医学的知識を実際の臨床に即して学ぶ。 [IP-01, 04, D-2-4-3]
講義	7/1 (火)	3	泉澤 充教授 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	系統的骨疾患 画像診断学7 歯や顎骨に異常を呈する全身疾患の適切な治療を行うため、臨床症状や画像診断・病理診断を基にした総合的診断の知識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 副甲状腺疾患、甲状腺疾患、下垂体疾患、骨系統疾患、その他の全身疾患（基底細胞母斑症候群、Gardner症候群、Papillon-Léfevre症候群、Albright症候群、外胚葉異形成症、Down症候群） [E-1-2)-⑦～⑨]

講義	7/1 (火)	4	山田浩之教授 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	歯科心身症 舌痛症、非定型歯痛、口腔異常感症、咬合異常感などの心因性病態について習得する。	1. 歯科心身症を列挙できる。 2. 歯科心身症の病態を簡単に説明できる。 3. 歯科心身症の代表的な治療方法を説明できる。 [D-3-1-10-11, D-5-9-1, 2] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P431～442を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	7/7 (月)	1	矢菅 絵里加助教 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	血液疾患1 赤血球、白血球異常 貧血や白血病の全身的症状と口腔症状との関連について習得する。	1. 赤血球の異常を現す疾患を列挙できる。 2. 貧血について概説できる。 3. 貧血の症状と治療法を説明できる。 4. 白血球の異常を現す疾患を列挙できる。 5. 白血病について概説できる。 [D-2-4-1, D-2-3-6] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P254～271を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	7/7 (月)	2	矢菅 絵里加助教 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	血液疾患2 出血性素因 出血性素因に関する知識を習得する。	1. 出血性素因を示す主な疾患を列挙できる。 2. 止血機能のスクリーニング検査項目を列挙できる。 3. 主要な出血性素因の病因、病態、治療法を説明できる。 4. 抗血栓療法について説明し適応疾患を列挙できる。 5. 抗血栓療法薬を列挙できる。 [D-2-4-1, D-2-3-7] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P254～271を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	7/8 (火)	3	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	唾液腺3 病理診断5 唾液腺疾患 口腔領域に発症する疾患の診断を適切に行うために、唾液腺病変の病理組織所見を習得する。	1. 唾液腺の解剖学的事項を説明できる。 2. 唾液腺の非腫瘍性病変（化生、嚢胞、炎症、免疫異常）の病理組織所見を説明できる。 3. 唾液腺の腫瘍性病変（良性腫瘍と悪性腫瘍）の病理組織所見を説明できる。 [D-3-1-8-1～7] 事前学修：新口腔病理学第3版257～282頁を読み、3学年時に学んだ知識を整理しておくこと。
講義	7/8 (火)	4	宮手浩樹 非常勤講師 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	特別講義5 病院歯科の概要や当科で行っているシェーグレン症候群への対応など	1. 医師と連携するために必要な医学的知識を実際の臨床に即して学ぶ。 [IP-01, 04, D-2-4-3]

講義	7/14 (月)	1	大橋祐生准教授 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	先天異常・後天異常2 顎の異常 顎の先天性・後天性異常に関する知識を習得する。	1. 主要な顎形態異常を列举できる。 2. 主要な顎変形症の症状を説明できる。 3. 主要な顎変形症の診断法を説明できる。 4. 主要な顎変形症の治療法を説明できる。 [D-3-1-1-1~4] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P139~147を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	7/14 (月)	2	大橋祐生准教授 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	先天異常・後天異常3 軟組織の異常 顎・口腔に異常を現す症候群と系統的骨疾患 先天性・後天性の軟組織の異常ならびに顎・口腔に異常を現す症候群と系統的骨疾患に関する知識を習得する。	1. 主要な軟組織の異常と治療法を説明できる。 2. 顎口腔に異常を現す主要な症候群と系統的骨疾患を列举し症状を説明できる。 3. 主要な症候群と系統的骨疾患の診断法を説明できる。 [D-3-1-1-1~4] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P109~126、138~139)を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	7/15 (火)	3	大橋祐生准教授 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	腫瘍6 口腔潜在的悪性疾患 口腔領域に発生する口腔潜在的悪性疾患に関する知識を習得する。	1. 口腔潜在的悪性疾患の概念を説明できる。 2. 口腔潜在的悪性疾患の種類を列举できる。 3. 口腔潜在的悪性疾患の診断と治療法について説明できる。 [D-3-1-6-5] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P235~343、363~366を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	7/15 (火)	4	大橋祐生准教授 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	腫瘍7 癌腫 顎顔面口腔領域に発生する上皮性の悪性腫瘍に関する知識を習得する。	1. 非歯源性悪性腫瘍の分類について概説できる。 2. 悪性腫瘍の特徴について概説できる。 3. 口腔癌の臨床症状を説明できる。 4. 口腔癌の各種画像所見を説明できる。 5. 口腔癌の病理組織像について説明できる。 6. 口腔癌の治療、予後について説明できる。 [D-3-1-6-3] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P341~365を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

講義	7/22 (火)	3	山田浩之教授 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	腫瘍8 肉腫、悪性リンパ腫、 悪性黒色腫 顎顔面口腔領域に発生 する非上皮性の悪性腫 瘍に関する知識を習得 する。	1. 口腔顎顔面領域に発症する主な 悪性腫瘍が列举できる。 2. 主な肉腫の種類が列举できる。 3. 主な肉腫の特徴、臨床症状、治 療および予後について説明できる。 4. 悪性リンパ腫の特徴、臨床症 状、治療および予後について説明で きる。 5. 悪性黒色腫の特徴、臨床症状、 治療および予後について説明でき る。 [D-3-1-6-3] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P341～361を参照し、事前学修の内 容を提出予定のノートにまとめてお くこと。
講義	7/22 (火)	4	大橋祐生准教授 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	腫瘍9 唾液腺腫瘍 唾液腺腫瘍の症状、診 断および治療法を習得 する。	1. 顔面神経麻痺の特徴、症状およ び治療法を説明できる。 2. 三叉神経麻痺の症状と治療法を 説明できる。 3. 舌咽神経麻痺の症状を説明でき る。 [D-3-1-9-3, 4] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P412～441を参照し、事前学修の内 容を提出予定のノートにまとめてお くこと。
講義	8/25 (月)	1	大橋祐生准教授 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	腫瘍10 腫瘍の治療1 外科療法 顎顔面口腔領域に発生 する悪性腫瘍に対する 手術の種類、適応、術 式について習得する。	1. 悪性腫瘍に対する治療の基本を 説明できる。 2. 舌癌の切除法の種類を列举し、 適応を説明できる。 3. 下顎歯肉癌の切除法の種類を列 挙し、適応を説明できる。 4. 上顎歯肉癌の切除法の種類を列 挙し、適応を説明できる。 5. 頸部郭清術の術式を説明でき る。 [D-3-1-6-3] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P776～816を参照し、事前学修の内 容を提出予定のノートにまとめてお くこと。
講義	8/25 (月)	2	山田浩之教授 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	腫瘍11 腫瘍の治療2 化学療法、その他の治 療 顎顔面口腔領域に発生 する悪性腫瘍に対する 化学療法や免疫療法の 種類、適応について習 得する。	1. 悪性腫瘍の化学療法について概 説できる。 2. 口腔悪性腫瘍に使用する化学療 法薬を列举できる。 3. 化学療法薬の投与法を説明でき る。 4. 化学療法薬の副作用を説明でき る。 [D-3-1-6-3] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P541～578を参照し、事前学修の内 容を提出予定のノートにまとめてお くこと。

講義	8/25 (月)	3	泉澤 充教授 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	腫瘍12 腫瘍の治療3 放射線治療 口腔癌の治療を適切に行うため、癌の放射線治療の基礎的知識・態度を習得する。	1. 放射線治療における副作用について説明できる。 2. 治療患者の口腔内管理について説明できる。 3. 悪性腫瘍に対する外照射の適応・方法について説明できる。 4. 悪性腫瘍に対する密封小線源照射の適応・方法について説明できる。 [D-3-1-6-3] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P541～578を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	8/25 (月)	4	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	腫瘍13 病理診断6 腫瘍 口腔領域に発症する疾患の診断を適切に行うために、腫瘍の病理組織所見を習得する。	1. 腫瘍の総論的事項を説明できる。 2. 口腔領域に生じる腫瘍を組織由来や良悪性によって分類し、それぞれで頻度の高いものを具体的に列挙できる。 3. 口腔領域に生じる腫瘍について、それぞれの病理組織所見を説明できる。 [A-5-6-1～6] 事前学修：新口腔病理学第2版196～211頁を読み、3学年時に学んだ知識を整理しておくこと。
講義	9/22 (月)	1	中村正帆教授 (薬理学講座 病態制御学分野)	腫瘍14 腫瘍の治療4 抗炎症薬と抗癌剤 炎症および悪性腫瘍に対する治療薬の薬理学的知識を習得する。	1. ケミカルメディエータについて説明できる。 2. 抗炎症薬の作用点について説明できる。 3. 化学療法薬について説明できる。 4. 抗腫瘍性抗生物質について説明できる。 [D-3-1-6-3] 事前学修：最新口腔外科学第5版 551～556頁を読み、薬理学的知識を整理しておくこと。
講義	9/22 (月)	2	平野大輔助教 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	手術1 外来手術の基本手技1 滅菌法・消毒法 消毒法について修得する。切開、縫合、止血、骨切削などに用いる器具について習得する。	1. 消毒法と滅菌法の概念を説明できる。 2. 消毒法と滅菌法の種類、適応について説明できる。 3. 術前の手指の消毒法を説明できる。 4. 手術野の消毒法を説明できる。 5. 縫合の種類を列挙し、説明できる。 6. 止血法の種類を列挙し、説明できる。 [D-5-4-4 , E-1-1-2] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P493～506を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

講義	9/22 (月)	3	古城慎太郎講師 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	手術2 外来手術の基本手技2 普通抜歯、埋伏歯抜歯 抜歯の手順や用いる器具の使い方について習得する。	1. 抜歯の適応症と禁忌症を説明できる。 2. 抜歯の偶発症と合併症およびその対処法を説明できる。 3. 抜歯に必要な器具を説明できる。 4. 抜歯の正常治癒経過および異常な治癒経過とその対処法を説明できる。 5. 抜歯の基本手技について説明できる。 [D-5-4-1~3, E-5-3-5-1, 3] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P484~506、653~694を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	9/22 (月)	4	古城慎太郎講師 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	手術3 外来手術の基本手技3 歯根端切除術 歯槽堤手術 歯の再植・移植 歯根端切除術、歯槽堤の手術を適切に実施するために必要な知識を習得する。	1. 歯根端切除術の適応症と禁忌症を説明できる。 2. 歯根端切除術の偶発症と合併症およびその対処法を説明できる。 3. 歯根端切除術に必要な器具の用法と手技を説明できる。 4. 歯槽堤整形術の適応症と手技を説明できる。 5. 歯の移植・再植の適応症と手技を説明できる。 [D-5-4-3~5, E-1-1-2] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P484~506、653~694を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	9/29 (月)	1	古城慎太郎講師 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	手術4 顎矯正手術 術後管理 併発症	1. 上顎骨と下顎骨の手術方法を説明できる。 2. 術後管理について説明できる。 3. 併発症について説明できる。 [D-3-1-1-3] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P718~730を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	9/29 (月)	2	古城慎太郎講師 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	手術5 外来手術の基本手技4 その他の手術 軟組織の手術、補綴前手術を適切に実施するために必要な知識を習得する。	1. 軟組織の欠損や延長に関する手術の理論が説明できる。 2. 小帯手術の適応症と手術手技が説明できる。 3. 補綴前手術の適応症と手技が説明できる。 [E-5-3-5-1~4] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P484~506、653~694を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

講義	9/29 (月)	3	大橋祐生准教授 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	手術6 移植外科 顎顔面領域に用いられる移植術に必要な知識を習得する。	1. 移植の定義を説明できる。 2. 再建の定義を説明できる。 3. 移植材料を分離できる。 4. 顎顔面領域の移植術を説明できる。 [E-5-3-5-1~4, D-3-1-6-3] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P484~533を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	9/29 (月)	4	大橋祐生准教授 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	手術7 再建外科 顎顔面領域の再建に必要な知識を習得する。	1. 軟組織移植による再建術が説明できる。 2. 骨移植による再建術が説明できる。 3. 生体材料による再建術が説明できる。 [D-3-1-6-3] 事前学修：最新口腔外科学第5版 P509~533を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	10/6 (月)	1	高橋美香子助教 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	医療安全 歯科医療における安全性への配慮と危機管理 安全な歯科治療を行うために、安全への配慮に関する知識・態度を習得する。	1. 医療事故と医療過誤の違いを説明できる。 2. 医療事故の事例の原因の分析、防止策について説明できる。 3. 医療事故発生時の緊急処置・記録・報告について説明できる。 4. 針刺し事故の対処法を説明できる。 5. 医療過誤における歯科医師の社会的責任と罰則規定の基本的事項を説明できる。 6. 医療従事者の健康管理の重要性を説明できる。 [E-1-1-1, 7]
講義	10/6 (月)	2	石橋 修 臨床教授 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	特別講義6 八戸赤十字病院歯科口腔外科の臨床	1. 医師と連携するために必要な医学的知識を実際の臨床に即して学ぶ。 [IP-01, 04, D-2-4-3]
演習	10/6 (月)	3 4	山田浩之教授 川井 忠准教授 大橋祐生准教授 古城慎太郎講師 野宮孝之助教 秋本祐基助教 高橋美香子助教 平野大輔助教 星 勲助教 鈴木 舟助教 川又慎介助教 矢菅絵里加助教 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	アクティブ・ラーニング1	1. グループ学修 2. 事前に配付されている課題に対してグループごとにプロダクトを作成できる。 3. グループごとの成果発表（全体発表） 4. 他のグループがまとめた課題について、ディスカッションできる。 [E-3-2-1, C-2-4]

講義	10/20 (月)	1	山田浩之教授（口腔 顎顔面再建学講座 口 腔外科学分野）	拔牙の禁忌症 拔牙と全身疾患 拔牙と全身疾患とのか かわりを理解し、安全 に治療が行える知識を 習得する。	1. 拔牙の適応症と禁忌症を説明できる。 2. 拔牙を行う際、注意を要する全身 疾患を説明できる。 3. 拔牙をする際の全身疾患の管理方 法が理解できる。 事前学修：拔牙の禁忌症について疑 問点、理解しにくい点を箇条書きに しておくこと。疑問点は、随時、質 問すること。質問を十分配慮し フィードバックしながら授業を展開 する。 [D-5-4-1、E-5-3-5全般]
講義	10/20 (月)	2	平野大輔助教（口腔 顎顔面再建学講座 口 腔外科学分野）	拔牙窩の治癒・拔牙の 偶発症 拔牙後の治癒過程を理 解することで、適切な 拔牙後の対応、対処が できる。拔牙の偶発症 を解剖学的知識と合わ せて理解することで、 偶発症や合併症に適切 な対応ができる。	1. 拔牙の正常治癒経過を説明でき る。 2. 拔牙の異常治癒過程とその対処法 を説明できる。 3. 創傷治癒について臨床的事項と基 礎医学的事項を整理して説明でき る。 4. 抗菌薬の使用方を説明できる。 5. 鎮痛剤の使用方を説明できる。 6. 拔牙の偶発症と合併症を説明でき る。 7. 偶発症や合併症の対処を説明でき る。 [D-5-4全般] 事前学修：拔牙の治癒異常、拔牙の 偶発症5種類（気腫、脱臼、上顎洞 瘻孔、神経損傷、誤飲・誤嚥）つ いて疑問点、理解しにくい点を箇条書 きにしておくこと。疑問点は、随 時、質問すること。質問を十分配慮 しフィードバックしながら授業を展開 する。
演習	10/27 (月)	1 2	山田浩之教授 川井 忠准教授 大橋祐生准教授 古城慎太郎講師 野宮孝之助教 秋本祐基助教 高橋美香子助教 平野大輔助教 星 勲助教 鈴木 舟助教 川又慎介助教 矢菅絵里加助教 （口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野）	アクティブ・ラーニン グ2	グループ学修 前回の発表で得られた他のグループ からの指摘事項を検討し、プロダク トをブラッシュアップできる。 グループごとの最終発表（全体発 表） ブラッシュアップされたプロダクト を発表し、ディスカッションでき る。 [E-3-2-1、C-2-4]
講義	10/27 (月)	3	矢菅 絵里加 助教 （口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野）	トランスレーショナル リサーチ 臨床での疑問を解決す るために情報を検索・ 整理統合する方法を習 得する。	1. 講義・実習で得た知識を、診療で 経験した病態の解析に応用できる。 2. 患者や疾患を分析するために、教 科書・論文などから最新の情報を検 索・整理統合することができる。 [RE-03～06]

講義	10/27 (月)	4	川又 慎介 助教 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	症例検討 顎口腔領域の疾患の治療方針、予後について習得する。	1. 経過、症状および各種検査所見から診断できる。 2. 鑑別診断を列挙できる。 3. 治療方針を立案できる。 4. 予後について説明できる。 [E-3-2-1~4]
実習	11/10 (月)	1 2	山田浩之教授 川井 忠准教授 大橋祐生准教授 古城慎太郎講師 野宮孝之助教 秋本祐基助教 高橋美香子助教 平野大輔助教 星 勲助教 鈴木 舟助教 川又慎介助教 矢菅絵里加助教 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	医療面接と口腔・頭頸部の診察(実習) 口腔外科における医療面接と口腔・顔面・頸部の診察に関する知識、技能、態度を習得し実践できる。	1. 診察の環境を整えることができる。 2. 適切なコミュニケーションをとりながら診察することができる。 3. 患者に配慮した診察を実施できる。 4. 頭頸部の診察の手順を説明できる。 5. 口腔の診察を実施できる。 6. 頭頸部の診察を実施できる。 7. 診察結果をカルテに記載できる。 8. 診察結果を患者に説明できる。 [E-2-1-1全般、E-2-2全般、E-5-3-5全般] 事前学修：歯科治療時に注意しなければならない全身的な疾患と処方されている薬物について調べておく。 ・抗凝固薬、免疫抑制薬、骨吸収抑制薬など ・薬の相互作用
実習	11/10 (月)	3 4	山田浩之教授 川井 忠准教授 大橋祐生准教授 古城慎太郎講師 野宮孝之助教 秋本祐基助教 高橋美香子助教 平野大輔助教 星 勲助教 鈴木 舟助教 川又慎介助教 矢菅絵里加助教 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	手洗い 普通抜歯1(実習) 外科手術における手指の消毒に関する知識、技能、態度を習得し実践できる。 普通抜歯に関する知識、技能、態度を習得し実践できる。	1. 手術前の手洗いが適切に実施できる。 2. 普通抜歯に必要な器具を準備できる。 3. 普通抜歯に使用する器具の使い方を説明できる。 4. 抜歯鉗子の種類を区別できる。 5. 抜歯に必要な器具、材料を清潔操作で準備できる。 [D-5-4-1、E-5-3-5全般]
実習	11/17 (月)	3 4	山田浩之教授 川井 忠准教授 大橋祐生准教授 古城慎太郎講師 野宮孝之助教 秋本祐基助教 高橋美香子助教 平野大輔助教 星 勲助教 鈴木 舟助教 川又慎介助教 矢菅絵里加助教 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	普通抜歯2 縫合・抜糸(実習) 普通抜歯に関する知識、技能、態度を習得し実践できる。 縫合、抜糸に関する知識、技能、態度を習得し実践できる。	1. 抜歯操作を行う環境を整えることができる。 2. 抜歯操作が適切にできる。 3. 縫合、抜糸に必要な器具、材料を準備できる。 4. 手指縫合が実施できる。 5. 抜糸が適切にできる。 [D-5-4-1、E-5-3-5全般]

実 習	12/1 (月)	1 2	山田浩之教授 川井 忠准教授 大橋祐生准教授 古城慎太郎講師 野宮孝之助教 秋本祐基助教 高橋美香子助教 平野大輔助教 星 勲助教 鈴木 舟助教 川又慎介助教 矢菅絵里加助教 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	実習試験 (医療面接・診察・手 洗い・抜歯・縫合)	1. 頭頸部の診査、手洗い、器械の準備、抜歯、縫合を適切に実施できる。 [D-5-4 全般、E-1-1全般、E-2-2全般、E-5-3-5全般]
--------	-------------	--------	--	---	---

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	歯科医師のための内科学	千葉俊美、山田浩之編	医歯薬出版	2021年
教	最新口腔外科学 第5版	榎本昭二ほか 監修	医歯薬出版	2017年
参	カラーアトラス サクシンクト口腔外科学 4版	内山健志ほか編	学建書院	2019年
参	イラストでみる口腔外科手術 第1-4巻	日本口腔外科学会 編	クインテッセンス出版	2010年
推	Internal Medicine for Dental Treatments	千葉俊美、山田浩之編	Springer	2024年

成績評価方法・基準・配点割合等

定期試験評価点	＝	前期試験(試験範囲7月8日講義分まで)を40%、 後期試験(試験範囲7月8日以降の講義分)を40%、実習試験を20%とする。 (小数点がでた場合、65点以上は四捨五入、65点未満は切り捨て)
追試験・再試験について		病気又はやむを得ない理由により本試験を受けられなかった時、その理由の消滅後に願い出により追試験を受けることが可能です。 総合点が65点未満の場合には、期末に行われる再試を受けることが可能です。 再試範囲は前期・後期の全てです。 前期試験あるいは後期試験のどちらが65点以上でも領域の免除はありません。

特記事項・その他 (試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等)

資料配布は原則としてWebClassを通じて行う。講義前に内容を確認し、理解を深めておくこと。
当該科目に関連する実務教員の有無 … 有 (大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う)

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
デスクトップパソコンー式	400 G6 SF/CT	1	視聴覚用機器	資料作成用
デスクトップパソコン	NEW Vostro3681	1	視聴覚用機器	資料作成用
デスクトップパソコン	iMac Retina 5K	1	視聴覚用機器	資料作成用
デスクトップパソコン Inspiron277700	FI779-AWHBSC	1	視聴覚用機器	資料作成用
デスクトップパソコン ESPRIMO EH77/E3	FMVF77E3B	1	視聴覚用機器	資料作成用
Mac Book Pro	MYD92J/A	1	視聴覚用機器	資料作成用